

リズモー市への派遣学生決定

大和高田市からリズモー市への派遣学生が決定しました。随行する土庫小学校の宇野美由紀教諭と共に、次の5名の学生が、7月27日から8月9日までの14日間、リズモー市を訪問します。



竹村 真浩

中学生のときからリズモー市に行きたいと思っていました。今回行けることになったことがすごく嬉しいです。この貴重な体験を無駄にしないようにするために、コミュニケーションを積極的にしていけるように頑張ろうと思います。



林 千裕

ホームステイをすることが初めてです。少し緊張していますが、自分なりに積極的にホストファミリーと会話をし、日本と大和高田市のことを伝え、なおかつオーストラリアのことをたくさん知りたいです。この経験によって、自分が大和高田市とリズモー市の掛け橋になることができれば良いと思います。



山野 悠佳

リズモー市滞在期間中に、一つでも多くの日本の伝統文化を伝えていきたいと思っています。「いただきます。」や「ごちそうさま。」を特に伝えたいです。私が日本文化を伝えることで、現地の人々に少しでも興味を持ってもらえればと思っています。また、伝えるだけでなく、オーストラリアの伝統文化や生活習慣を実際に体験し学びたいと思っています。そして、自分の中に取り入れ日本に帰国し、家族や友人にオーストラリアについて広めていきたいです。



吉田 侑未

私はリズモー市へ行って、ホストファミリーの方々と仲良く、生活を楽しまたいと思いません。まだまだ知らないことがたくさんありますが、勉強して、大和高田市について多くのことを伝えれば良いと思います。この機会に、リズモー市や大和高田市のことをたくさん学びたいと思います。



川村 ほの香

今回初めてオーストラリアに行くことになります。友達がオーストラリアに住んでいて、その友達から、オーストラリアは良い所だと聞いているので、オーストラリアに行くことができることをとても嬉しく思います。



土庫小学校教諭
宇野 美由紀

幸せの種

派遣学生たちは、この取り組みを通して人の幸せに繋がる種を蒔いてくれることと思います。私は指導者としてその支援をしていきたいと思っています。リズモーの方たちに、土庫小学校区の素敵を伝え、子どもたちにはリズモーのたくさんの素敵を伝えます。自分のことを大切に、地域に誇りを持った子どもたちに育ててくれますように。



国指定重要文化財 弥勒菩薩像

弥勒仏座像は、平成24年9月6日に国の重要文化財に指定されました。この像は、専門機関で修理を施された後、平成27年2月24日、新装になった弥勒寺本堂に安置されました。大和高田市での国の重要文化財の指定は不動院本堂について、2件目です。



The Bamboo Shoots

～地方季刊新聞～
大和高田・リズモー都市友好協会 発行
2015年 春号

No.165

連絡先：大和高田・リズモー都市友好協会
TEL：0745-22-1101
http://www.city.yamatotakada.nara.jp/lismore/

このバンブーシューツ（筍）が、大和高田市とリズモー市の情報交換に役立つ立派な竹に成長しますように



3月23日リックと私は、3週間の休日をとって、大和高田市へ飛び立ちました。桜の美しさを実感したかったからです。親友のエツコが親切にもホームステイを提供してくれて、別の親友ミツコは親睦を図るための日程表を、あれこれと作成してくれました。23年間に渡る交流活動の中で、非常に多くの友人を得られたことは本当に有り難く、姉妹都市学生交換プログラムのコーディネーターとして事業に関わった事はとても嬉しく思っています。

大和高田市を訪れるたびに、私たち二人に示してくださった真心、信頼、誠意や親愛などは、言葉では言い尽くせません。今回の訪問時のレセプションでは、これまでの交換学生たちや引率された先生方が50人以上も出席され、とても感動し驚きと共に嬉しい出来事でした。それは、思い出の小道をたどる旅となり、1994年の交換学生であるユキコや、多くの学生達から最新のニュースに至るまでの様々な話を聞かせてもらえるパーティーとなりました。1992年の第1回交換学生のアキが当日日本に居たら、きっと出席してくれたと思いますが、オーストラリアで働いているので会えませんでした。交換学生プログラムは1986年から始まったのですが、その第2回のリズモー訪問グループに、タロウと言う一人の青年がいました。彼の母親はその時以来、姉妹都市交流の強力な支持者で、長年交流を続けています。それぞれの留学生は、とても感動的なメッセージを残し、彼らの若い人生の歩みに変化をもたらしていることを知り、とても光栄に思っています。吉田市長並びに大和高田・リズモー都市友好協会会長のご同席を得たこのパーティーは、4月5日にさざんかホールで開催されました。

これほどまでに歓待を受け、有り難く思っていたところ、思いがけず「友好親善大使」という称号を授けられると共に、信任状及び桜の花、オーストラリアの国花や、両市の市花があしら

われたバッジを光栄にも拝受しました。リックと私は、そのような評価を頂くとは夢にも思っていませんでしたが、長い間、姉妹都市への貢献をしてきたことに誇りを感じますと同時に、それを高く評価され、誠に嬉しく思っています。

私たちはいつでもどなたでも訪ねてくれることをお待ちしております。大和高田市の皆さんも、私達を歓迎して下さいます。

いくら控えめに言わせていただいても、本当に楽しい時を過ごさせていただきました。川の湖畔を散策し、ほとんど毎日桜の花の移ろいを味わいました。桜の咲き始めから、桜の花びらが川面や地面一面に淡いピンク色のカーペットのように散りばめる様を見ました。緑の若葉が芽を出し、昼も、ライトアップされた夜も、桜花を鑑賞しました。実に見事な美しさ！訪問中には、市民の英語教室や美術教室、フラワーアレンジメント教室、友人との素晴らしい昼食会や、夕食会にも参加しました。ユキコとその家族に連れられて、大阪の天王寺ハルカスを訪れ、300メートルの上空から大阪市内を眺めました。まさに驚愕！電車での桜で名高い吉野への旅、日本で最古と言われているケーブルカー乗車体験、そこでは幸いにも、寺院から歩み出る僧侶たちの行列を見ることが出来ました。大和高田市役所のアリサとヨシコが明日香を案内してくれ、100以上の人形の展示場を見学し、しかも一つの展示場だけでも500体以上の人形が飾られていたのです。仰天！素晴らしい休日となりました。1000枚を超える写真がそれを物語っています。

大和高田市、ありがとう。あなたたちが私たちに愛を与えてくださったと同様に、私たちがあなたたちに愛を捧げます。私たちはしっかりと大和高田市の良いところを様々知りまし、親しくして頂いた方々に会いたいと思った時には、心ウキウキと歩いて会いに行きました。何回もそうさせていただきますね。

ではまたお会いする日まで、ご機嫌よう。

コリーンより



海のむこうから Hello! Skype で姉妹校との交流

平成 27 年 2 月 18 日、大和高田市立陵西小学校の 6 年生が、姉妹校であるオーストラリア・リズモー市のアワーレディー・ヘルプ・オブ・クリスチャン小学校の 5、6 年生と交流しました。両校をネット電話「Skype」で結び、カメラに向かって「グッドモーニング」と呼びかけました。陵西小学校は、給食のエプロンを着用して、メニューや皿などを紹介

しました。アワーレディー・ヘルプ・オブ・クリスチャン小学校は、日本語で「はじめまして」と自己紹介し、空手やサッカー、クリケットなどのスポーツを紹介しました。

子どもたちは、初めての経験であるため、緊張した表情を見せていましたが、少しずつ表情も軟らかくなり、交流を楽しみました。

子どもたちに聞いてみました

教室に入ったとき、たくさんの報道の人たちがいて、とても緊張したけど、交流が始まるとリズモーの小学生が手を振ってくれて、緊張が少し和らぎました。オーストラリアのことを知り、**日本のこともたくさん知ってもらえて、良かったです。**リズモーの子どもたちも、すごく笑顔がいっぱいで、みんな仲良さう感じでした。



楽しかったです。オーストラリアの人も元気で、スポーツを教えてくださいました。**文化やスポーツの違いも発見**しました。

はじめて会う人たちだったけど、ドキドキなくて、**とても楽しかったです。**オーストラリアでは、日本では有名でない、野球に似ているスポーツがあることもわかりました。



初めはすごく緊張して、みんながチガチガだったけど、手を振ると振り返ってくれて、少し緊張がほぐれました。英語で会話している姿を見て、**自分もこんな風に英語をしゃべりたいなとか、カッコいいなと思いました。**

交流して楽しかったし、**感動しました。**遠い国の人と交流できることに、**さらに感動しました。**

リズモーのみんなに、いろいろなことを聞いたり、逆に聞かれたりして、答えるのが楽しかったです。オーストラリアでも空手をしていることを、はじめて知りました。昼食はみんなバラバラで、果物をたくさん食べる子もいるのはいいなと思いました。陵西小学校にも、売店があったらいいなと思いました。

またスカイプ交流したいです。



—6年生 笑顔で交流—

大和高田市立陵西小学校
校長 西川 知恵巳

「Hello!」「こんにちは!」で始まったスカイプによる交流会。画面からは、少しはにかんだ様子のアワー・レディー・ヘルプ・オブ・クリスチャン小学校の子供たちが、映し出されました。本校は、平成 26 年 8 月、オーストラリアのリズモー市にある小学校と、姉妹校になりました。それ以来、3 年生が交流の機会を持ち、自分たちの学校を紹介した DVD を贈り、平成 27 年 2 月には、6 年生がスカイプを活用して交流しました。どきどきしながら迎えた交流の日、初めての取り組みという緊張感からか、陵西小学校の子供たちの表情は少し硬い感じがしましたが、お互いの学校生活の紹介が楽しく進むにつれ、表情が柔かくなり、驚くほど自然に交流ができました。子どもたちは、お互いに相手の国の言葉を使って、給食のメニューを紹介し合ったり、自分たちがしているスポーツを教え

担任の先生からのメッセージ

子どもたちにとって、とても貴重な体験になりました。今までに行ったリズモーとの交流や、社会科の学習でオーストラリアについて学ぶことよりも、子どもたちのさらに生き生きとした表情が印象的でした。英語に対して、苦手意識をもっている子どももいますが、スカイプによる直接の交流を、とても楽しんでいました。

初めは何をしたらよいのか、教師自身もイメージが持ちにくかったのですが、子ども同士のパワーはすごいもので、言葉がなくてもお互いに顔を合わせると、笑顔になるし、手を振り、拍手をおくります。自然に「自分たちのことを伝えたい」「相手のことを知りたい」という気持ちになってきていることが、直に伝わってきました。交流時間はあっという間に終わり、子どもたちからは「もっとやりたい」という声が多く聞かれました。短い時間でしたが、子どもたちにとっては異文化に触れる、とてもすばらしい交流でした。同じ小学生であるが、自分たちと違うところもある。お互いの違いを認めることは、とても大切なことです。今回の交流を通して、自分自身で「もっと知りたい」「行ってみたい」「他の国のことも知りたい」という気持ちが出てきました。やはり、自分で調べ、読んだり聞いたりすることで、感じることに以上、肌で感じるものがあつたのではないのでしょうか。ぜひこのような機会を、今後も作っていききたいと思います。



あつたりしていました。スクリーンからは、アワー・レディー・ヘルプ・オブ・クリスチャン小学校の子供たちの様子がとてもよくわかり、遠く離れた学校であることを忘れてしまうほど身近に感じられ、楽しく交流することができました。

日本とオーストラリアの学校生活の違いに子どもたちは驚きながらも、交流が進むにつれ、自分たちの学校生活を知ってもらいたいという思いが強くなっているのが、言動から感じられました。その様子を見て、何事も経験することが大切だと、改めて思いました。どちらの国の子どもたちも、笑顔が素敵でした。

遠く離れた学校でも、こんな方法での交流が可能であると知り、体験できたことが大きな喜びになったと思います。これからは機会を見つけて姉妹校との交流を深め、異文化交流を活発にしていきたいと考えます。そして、子供たちには、いろんな文化に触れ、幅広い知識と柔軟な思考力をもって、おおらかに育ってほしいと願います。